

ブログ毎日更新中 [www.takamaro.jp](http://www.takamaro.jp)



# たかまる通信

第39号

2025.12.14

討議資料

■発行/福岡たかまる後援会 TEL0952-20-0111



図1

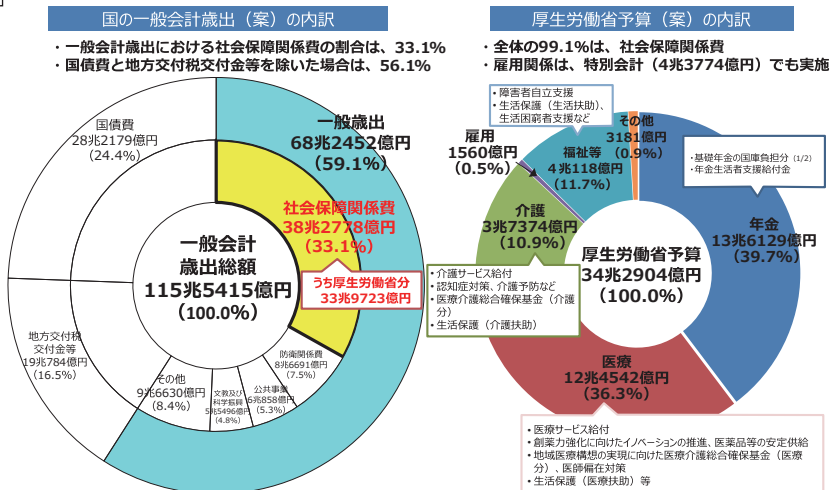
厚生労働省が担うのは、  
日本に暮らす**すべての人の一生を支える**仕事  
～ゆりかごから墓場まで、「いつも」から「もしも」まで～



令和6年10月1日より、令和7年10月21日までの386日間、石破内閣において、厚生労働大臣を務めました。厚生労働省は所掌も幅広く(図①参照)、職員は地方も含めると3万2千人、予算規模も一般歳出の半分の約34兆円に及ぶ(図②参照)など国民生活に密接に関わる分野ですから緊張と重圧を感じる毎日でしたが、任を全うすることができました。この間、国会における答弁は2435回を数えました。国会開会中

図2

国の一般会計歳出と厚生労働省の予算 (令和7年度予算案より)



は朝の3時半ごろから答弁書を読み込み、朝から夕方まで続く委員会に備え、その合間に政府や省内での会議、政策決定などを行う目まぐるしい毎日でした。全力で支えていただいた厚生労働省の職員の方々、事務所スタッフや家族のサポート、そして何よりも地元佐賀の方々の温かい励ましがあつたからこそ乗り越えられたと感じています。心より感謝申し上げます。

昨年(2024年)の出生数は68・6万人と過去最少を更新するなど、急速な少子高齢化の進行の中でも、将来にわたって持続可能で安心できる社会保障制度を構築することが何よりも重要です。そのためには、年齢にかかわらず負担能力に応じて支え合う全世代型社会保障の構築が急がれます。いま、多くの医療機関や福祉施設が赤字で経営存続が厳しい状況にあります。また、他産業に比べて賃上げができていないため、人材確保も厳しさを増しています。保険料を払っていただいた方が、地域に必要な医療や福祉サービスを受けられないようなことはあってはなりませんから、国が責任を持つて対応しなければなりません。一方で、社会保障料負担がこれまでに以上に家計や企業経営を圧迫しているという多くの声もあります。ですから、社会保障料を上昇させないように、DX化などの効率化を図りながらギリギリの解決策を模索していく必要があります。

医療や介護・障害福祉サービスについては、令和6年度の報酬改定において措置してもなお、物価上昇や人材確保、サービス需要の変化などへの対応が求められていました。令和6年度の補正予算で人材確保や職場環境に関する予算を措置したほか、福祉医療機構によるゼロゼロ融資(無利子無担保融資)など資金繰りの支援の強化も行いました。依然として、厳しい環境にある医療や福祉の環境改善に引き続き努力していきます。マイナ保険証の普及や、スマートフォンへ

の機能搭載によって、データに基づくよりよい医療を受けられる環境整備にも努めました。

高額療養費制度の見直しについても大きな議論を呼びました。高齢化や高額薬剤の普及により高額療養費が医療費全体の倍のスピードで増加する中、制度を将来にわたり堅持しながらも、現役世代の保険料負担を軽減する観点から、前回改正から10年ぶりとなる見直しを目指しました。当初の見直し案に対して国会等で丁寧さを欠いたとの指摘を受け、私自身患者団体の方々と二度面会し、その後も当事者の声を伺いながら改めて議論を重ねることとしました。丁寧な議論を踏まえ、今後の方向性を見出し、いくこととなります。



予算委員会での答弁

令和7年の通常国会では、厚生労働省が提出した6本の法律のうち5本が成立しました。その中で、一番難しい対応を迫られたのが年金法案でした。働き方や男女の差に中立的で、多様化するライフスタイルや家族構成に対応した年金制度への転換が必要で、被用者保険の適用拡大により非正規労働者を含めより多くの方々に制度に入っていたとき、在職老齢年金制度の見直しを通じて、年金の減額を気にして就業を躊躇することを無くしていく環境を整備しました。さらに、遺族年金制度の見直しや標準報酬月額の上限の段階的引上げ、iDeCo（個人型確定拠出年金）の加入年齢拡大など、現役期から老後まで切れ目のない所得保障を目指す内容となっています。衆議院での修正を踏まえ、将来の基礎年金



毎週火・金に行われる閣議後の記者会見

給付水準の底上げが追加されました。法案提出まで時間がかかり、厳しい指摘を受けましたが、最終的には与野党の枠を超えた合意を得て成案を得ることができました。

「賃上げの流れを全国に定着させること」にも力を注ぎました。政労使による意見交換を重ね、地方版政労使会議の開催などを通じて賃上げ機運を醸成した結果、令和7年春闘では賃上げ率が5・25%に達し、33年ぶりの高水準を記録しました。加えて、最低賃金についても、助成金支援や価格転嫁の推進など企業が賃上げしやすい環境整備を進め、全国加重平均で1121円（佐賀県1030円）、過去最大66円の引上げを実現。最高額に対する最低額の比率も83・4%へと改善し、地域間格差の是正も進みました。

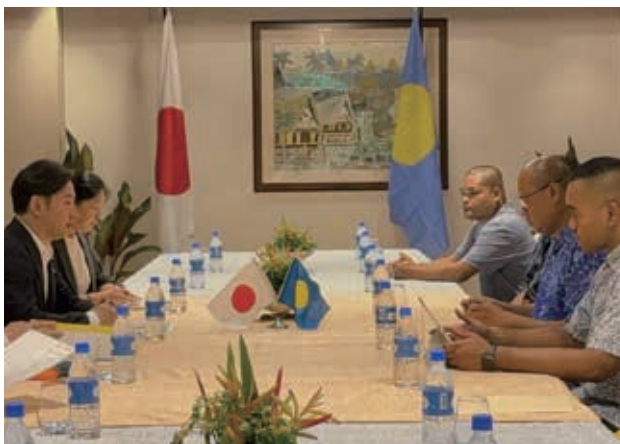


官邸での会議



大臣室で答弁の打ち合わせ

今年（2025年）は戦後80周年の節目にあたります。戦没者のご遺骨の早期帰還と慰霊の取組は、国を挙げて取り組むべき重要な責務です。私から閣僚に対して海外出張などの機会をとらえて政府建立の慰霊碑への拝礼を呼びかけました。私自身も3月29日に総理や防衛大臣とともに硫黄島での戦没者慰霊追悼顕彰式に出席したほか、パラオ共和国ペリリュー島で確認された日本人戦没者の集団埋葬地について5月に現地を訪問し、日・パラオ両国で協力して遺骨収集を加速させることで正式に合意しました。広島市原爆死没者慰霊式、長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典



パラオ共和国メトゥール大臣との会談

に出席したほか、天皇后陛下のご臨席を仰ぎ日本武道館での全国戦没者追悼式を挙行了しました。ご遺骨の引き渡し式や洋上慰霊結団式へも出席しました。戦没者ならびに先の大戦でお亡くなりになられた方々に深く哀悼のまことを捧げるとともに、恒久平和確立の誓いを新たにしました。

そのほかも枚挙にいとまがありません。慌ただしい毎日でしたが、全力で駆け抜けた386日でした。うまくできたかどうかは様々なご評価があると思いますが、私自身は全てに全力投球したという思いがあり、悔いはありません。課題



ペリリュー島の「西太平洋戦没者の碑」での慰霊および献花

はなお山積していますが、現場の声に丁寧な耳を傾け、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、これからも歩みを進めていきます。

10月21日、参議院の「北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会」の委員長に就任しました。拉致問題は、歴代政権においてもそうでしたし、高市政権にとっても最重要課題と位置づけられています。ご家族のご高齢化も進む中、猶予もありません。国会における議論が進むこと、それによって解決への道筋が加速するよう努力したいと思えます。

たかまるサポーターを募集しています！

政治とカネの問題が取りざたされる中、私の事務所でも経費節減に努めています。それでも、政治活動にはお金がかかります。そんな私の政治活動をサポートしていただける方を募集しています。年間で1口2千円から（千円単位）お願いさせていただきます。皆様の温かいお気持ちで、福岡たかまるを育ててください。お力添えをよろしく願いたします。

公式  
サイト



公式  
Facebook



公式  
X (旧 Twitter)



福岡たかまる事務所

【佐賀事務所】  
〒840-0826 佐賀県佐賀市白山一丁目4-18  
**TEL0952-20-0111**  
**FAX0952-20-0666**

【国会事務所】  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館919号室

**TEL03-6550-0919**  
**FAX03-6551-0919**

郵便振込

口座記名番号：01700-2-76522

口座名義：たかまろう 21

※専用の振込用紙も用意しています。  
事務所に一報頂ければお届けします。